



じりつ「自律と自立」

指 宿 高 等 学 校
進路指導部 第 5 号
発行日 R 6 . 9 . 2 7 (金)

1・2年生版（裏面は3年生版）

進路目標達成のために勉強以外にやっておくべきこと

現在3年生の指導をしていて感じる、特に1・2年生に意識しておいて欲しいことをシンプルに3つに絞って伝えます。よく覚えておいて下さい。

① 欠席を3年間で一桁（9日以内）以内に作る。

→15日を超えると学校推薦が利用できません。「なんだ、15日までは休めるのか」と思った人もいるかもしれませんが、難関大学では皆勤で評定平均も5.0なんて人もたくさん出願してくるので、欠席が10日を超えればかなり見劣りするでしょう。ちなみに就職の話にはなりますが、以前私がいる大手企業の採用担当の方とお話しをした際、「欠席が3年間で10日以上の子は（仮に筆記の成績が1番でも）必ず不合格にしている。」とおっしゃっていました。少しでも欠席を少なくしておく努力は、将来のために重要です。

② 評定平均を4.3以上にする。

→各教科の評定は日頃の提出物や定期考査の頑張りによって年度末に決定します。成績のつけ方は相対評価（＝上位30%が「5」というような方式）ではなく、絶対評価（＝基準をクリアしていれば全員でも「5」になるという方式）なので、生徒全員が4.3以上というのは理論上可能です。4.3以上あればほとんどの大学の推薦入試に出願できますが、1高校内の推薦人数制限というものがあり、高校内での推薦希望が重なった場合、評定平均の高い方の生徒が、高校内の選考の際、有利になります。

例：鹿児島大学 教育学部 学校推薦型選抜Ⅱ では大学側の求める評定平均値が、中等教育の国語は4.3、社会・英語・数学・理科は4.1なので、そもそもこの条件を満たしていない人は推薦入試に出願できません。

またこの条件を満たしていたとしても、上記すべての学科で1高校内の推薦人数は2人までなので、自分の評定平均が4.8でも、指宿高校で4.9の人が2人同じ学科の推薦を希望した場合、推薦に漏れてしまうということがあり得ます。

③ 自己アピールできる資格や体験が欲しい！！

2023年度の大学入試で入学した全体の50.7%が推薦型選抜か総合型選抜で入学しています。学校推薦型選抜や総合型選抜は、自己アピール書を書くのに資格や交流経験やボランティアなどが必要です。例えば、自己アピールの記入欄が、部活動の記入欄とは別の記入欄になっていたりすると、自己アピールの記入欄に書くことが何もなく空欄になってしまう生徒がいます。これでは他の受験生に勝てるとは思えません。英検、数検、漢検など積極的に受検し、ボランティアなどに参加した場合は写真や参加証などを保管しておくことをお勧めします。